吉野家文書(日記)から金子市之丞のモデルを探る

文化十年十二月
十六日晴
流山無宿金子屋半七倅市蔵かねいち事盗賊悪党ニ付大坂ニ而被召捕今日小塚原江引廻シ獄門ニ懸候由

この金市（市蔵）が講談や伝説の金子市之丞のモデルとされる。金子屋半七は根郷の酒造人。なお、根郷には、半七が酒造株を受け継いだとされる金市という屋号の酒造人がいた（金古市兵衛）。

廿日晴
流山金市事市兵衛首上新宿村次兵衛貰ニ出昨夜持参今夜内葬礼之由光明院江葬候由

ここでは金市は市蔵から市兵衛になっている。埋葬したのは光明院とあるが、閻魔堂墓地のこととされている。

大晦日晴
思井清左衛門来　今夜帰宅　例之通歳暮

自他古凶世事風間留
流山村金子や半七倅市兵衛所々盗賊致共其上御加役方御吟味中同組遠□□□衛門幷□人江□附逃去ル途中飛脚之ものを押金八両脇差のさや等奪取大坂表江罷越居候処御手ニ入十二月十六日小塚原ニおゐて引廻し獄門ニ相成申候是八村方□□衛門従弟ニて□□衛門孫也

今回初めての解説になるので読み下してみます。

「流山村金子屋半七倅市兵衛は所々で盗賊をしていたが、その上加村の役方が取り調べ中に、役方の遠□□□衛門ならびに□人江□附から逃げ去り、途中飛脚から金八両と脇差の鞘などを奪って大坂表に罷り出ていたところ、役人に捕縛され、十二月十六日小塚原に引き回まされ獄門になった。これは村方の□□衛門の従弟の□□衛門の孫から得たもの」

大晦日の記述は、十六日と二十日に記載したが、その後、確実な情報を得たので改めて詳しく記したものであろう。加役方は加村の河岸や渡しを差配する役所があったと考えられる。ここでは二十日に続き市兵衛となっているので、市蔵は未確認で書いたと思われる。大坂表とあるので関西の大坂でしょう。流山の大坂や小金の大坂では表とは言わない。村方は芝崎村の村三役と取れる。その従弟の孫からの情報で確実性は高い。□□衛門が多く分かり難いが、孫が加村の役方であったのかもしれない。

市兵衛の年齢は分からないが、半七が文化年間の酒造人であったことから四〇～五〇歳とすると、二〇～三〇歳ぐらいか。そうすると、市之丞の明和六年生まれは考えられない。もっとも市之丞は架空の人物だからモデルと同じとする必要はないのだが。

オンライン会議より　　令和三年七月十一日　田村哲三